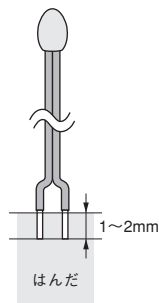
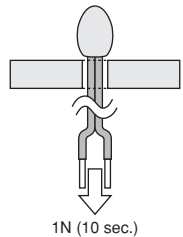
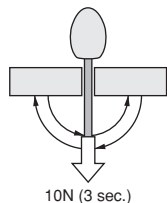
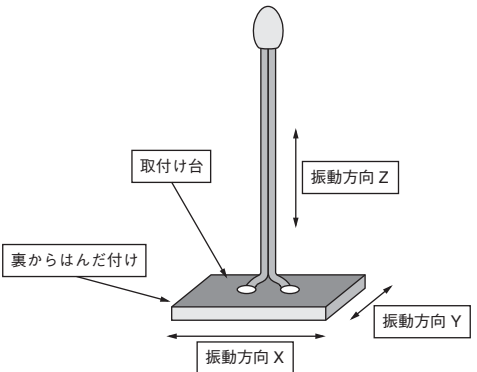


No.	項目	規格	試験方法
1	高温放置試験	<ul style="list-style-type: none"> 抵抗値変化率 (R25°C) : ±1%以内 B定数変化率 (B25-50°C) : ±1%以内 	温度125±2°Cの恒温槽に入れ、1000+48/-0時間放置する。
2	低温放置試験		温度-40+0/-3°Cの恒温槽に入れ、1000+48/-0時間放置する。
3	湿中放置試験		温度60±2°C,90~95%RHの恒温恒湿槽に入れ、1000+48/-0時間放置する。
4	温度サイクル試験	<ul style="list-style-type: none"> 抵抗値変化率 (R25°C) : ±2%以内 B定数変化率 (B25-50°C) : ±1%以内 	-40+0/-3°C (空気中) 30分間 常温 (空気中) 10~15分間 125±2°C (空気中) 30分間 常温 (空気中) 10~15分間 を1サイクルとし100サイクル行う。
5	高温連続負荷試験		85±2°C空気中で温度検知用動作電流を1000+48/-0時間通電する。
6	絶縁耐圧	<ul style="list-style-type: none"> DC100V 1分で異常がないこと。 	サーミスタの塗装部を鉛散弾中に先端から2mm埋没させて、鉛散弾とリード線間にDC100Vを1分間印加する。
7	はんだ耐熱性	<ul style="list-style-type: none"> 抵抗値変化率 (R25°C) : ±1%以内 B定数変化率 (B25-50°C) : ±1%以内 	リード線をFig-1に示す所まで、350±10°C, 3.5±0.5秒間または、260±5°C, 10±1秒間 はんだ (JIS Z 3282 SnAgCu) 溶液中に浸漬する。  Fig-1
8	はんだ付け性	<ul style="list-style-type: none"> リード線の円周方向90%以上で、軸方向に浸した所まで切れ目なく、はんだが付着していること。 	リード線をロジン (JIS K 5902) のイソプロピルアルコール (JIS K 8839) 溶液 (約25wt%) に5~10秒浸漬し、次に、Fig-1に示す所まで、245±5°Cのはんだ (JIS Z 3282 SnAgCu) 溶液中2±0.5秒間浸漬する。
9	リード線引っ張り強度	<ul style="list-style-type: none"> 抵抗値変化率 (R25°C) : ±1%以内 B定数変化率 (B25-50°C) : ±1%以内 	Fig-2に示すように、穴径φ1.0mmの基板にリード線を樹脂部が基板に当たる所まで通し、リード線に1Nの荷重10秒間加える。  Fig-2
10	リード線曲げ強度	<ul style="list-style-type: none"> リード線の断線なきこと。 	Fig-3のようにリード線を保持し、リード線を90°曲げ元に戻す。反対方向にも90°曲げ元に戻す。その後リード線に10Nの荷重を3秒間加える。  Fig-3
11	自然落下	<ul style="list-style-type: none"> 抵抗値変化率 (R25°C) : ±1%以内 B定数変化率 (B25-50°C) : ±1%以内 樹脂部外観に異常がないこと。 	1mの高さからコンクリートの床上に1回落下させる。

※・R25は25°Cのゼロ負荷抵抗値です。
 ※・B25-50は25-50°Cのゼロ負荷抵抗値より算出した値です。
 ・試験後常温常湿中(25°C)に1時間放置後測定します。

次ページに続く 

前ページより続く

No.	項目	規格	試験方法
12	耐振性	<ul style="list-style-type: none"> ・抵抗値変化率 (R25℃) : ±1%以内 ・B定数変化率 (B25-50℃) : ±1%以内 ・樹脂部外観に異常がないこと。 	<p>サーミスタを取付け台にはんだ付けし、これを試験機に固定する。振幅0.75mm (全振幅1.5mm)、周波数10Hz~55Hz~10Hzを1分間の周期とする振動を互いに直角な3方向に各2時間行う。</p> 

- ※・R25は25℃のゼロ負荷抵抗値です。
- ・B25-50は25-50℃のゼロ負荷抵抗値より算出した値です。
- ・試験後常温常湿中(25℃)に1時間放置後測定します。